

2020年4月1日から2021年3月31日まで

特定非営利活動法人フードバンク岩手

【1事業の成果】

(1) フードバンク事業

◆実施内容

- ・生活自立支援法に基づく岩手県内の相談機関や役所、社会福祉協議会等22ヶ所(連携機関ではなく実際に食品を提供した機関等)に譲渡(出庫)した。その他、相談機関や支援機関9団体(学習支援・こども食堂・被災者支援)、福祉施設等7施設、フードバンク団体9団体、計47ヶ所へ提供
- ・食品の取扱い量は大幅に増加し提供量(入庫)が37167.10kg、譲渡量(出庫)が37342.25kgとどちらも前年比で160%以上となった。

(2) 社会参加事業

- ・社会参加推進事業については、こども支援プロジェクトの梱包作業等をきっかけに学校以外で個人での参加をする学生が増え将来の担い手を増やす事ができた。一般ボランティアは長期にわたり定期的に参加する人数が増えた。また、フードバンク岩手のボランティア経験を基に他のボランティア活動参加の契機となった。
- ・一般、学生ボランティア参加人数 述べ767人(実人数229/内学生数75人)
- ・寄贈・提供は以下の表のとおり(2020年4月～2021年3月)

提供いただきました。(入庫)			譲渡いたしました。(出庫)				
	件数	重量(kg)	施設等	世帯数	人数	重量(kg)	
2020年4月	80	2242.70	2020年4月	105	84	183	1739.75
5月	71	2049.86	5月	70	61	127	3579.51
6月	109	3625.26	6月	68	52	93	1854.86
7月	122	6187.43	7月	78	72	99	2046.02
8月	74	1846.74	8月	50	435(339)	1401(1343)	7707.94(5892.04)
9月	88	2165.18	9月	87	165(93)	457(316)	2942.14(1427.13)
10月	86	2299.10	10月	54	45	96	829.48
11月	89	2909.69	11月	76	66	118	1190.67
12月	162	6296.40	12月	76	536(430)	1703(1465)	8381.15(6520.38)
2021年1月	83	1496.24	2021年1月	79	149(76)	441(285)	2189.92(1047.40)
2月	80	3083.57	2月	82	143	380	2070.02
3月	93	2964.96	3月	85	114(61)	341(224)	2810.78(838.07)
年度合計	1137	37167.10		890	1922	5439	37342.25

◆成果

- ・食品提供企業の増加、常設フードバンクポスト設置箇所の増加22ヶ所、合計48ヶ所となった。また広報や周知の徹底により、食品の取扱い量は大幅に増加し提供量(入庫)が37167.10kg、譲渡量(出庫)が37342.25kgとどちらも前年比で160%以上となり支援団体等への譲渡食品量を増加させた。
- ・箱詰め作業を行った高校生が地元スーパーへフードバンクポスト設置の交渉を行い、久慈市内の店舗2ヶ所へ設置となった。

◆課題

- ・コロナ禍で困窮世帯への支援策もあり食料支援要請に波があり、食品の確保や出庫の調整が難しくなっている、食品譲渡先のさらなる開拓も必要。
- ・コロナ禍でのボランティア募集や作業人数が重ならないようにする工夫が今後より一層必要である。

・寄付金は単発の寄付者が多く継続的な寄付者は減少。継続的な寄付につなげる事が重要。

(3) 困窮者支援事業(食のセーフティネット事業)

- ・生活自立支援法に基づく岩手県内の相談機関や役所、社会福祉協議会等 22 ヶ所(連携機関ではなく実際に食品を提供した機関等)に譲渡(出庫)した。その他、相談機関や支援機関 9 団体(学習支援・こども食堂・被災者支援)計 31 ヶ所へ提供
- ・フードバンク岩手への直接相談は 30 件(来所 4 件、電話 14 件、メール等 12 件)、関係機関へつないだ。
- ・生活困窮者支援団体等への食料譲渡量は 1,1072.06 kg (1 世帯あたり 13.0 kg 前年比 112%)

(4) フードバンク子ども応援プロジェクト

◆実施内容

・夏、冬休み中の子どもの健康面や精神面における不安を解消すると同時に悩みごとを抱えながらも、支援が行き届いていない小中学生のいる世帯が抱えている課題や悩みを早期発見し、ケースによってはアウトリーチも行い相談機関等の社会福祉資源に早期につなぎ、生活が困窮しきる前に解決を図り重篤化を防ぐことを目的とした事業を行った。

・定期便事業の開始、定期的に食品を送付する事により行政や社会福祉協議会等と連携し対象世帯を見守る事業を 10 月より開始した。

・緊急フードドライブなどで集まった食料品の検品や梱包作業には、市民ボランティアや学生ボランティアの参加で行った。若者が将来の担い手として、子どもの貧困問題や身近な地域課題の理解を深める為に作業前にこどもの貧困についての説明会を行った。(学生 75 名)

◆成果

・1059 世帯 3633 人へ長期休み期間中に食品の詰合わせを発送、送付した食品重量合計 15725.02 kg (1 世帯あたり 14.85 kg)

・多くの世帯へ社会福祉資源の案内チラシを食品と共に同封し相談先を知ってもらい、早期の相談につながった。また、行政担当課や社会福祉協議会以外にも多機関との協働や連携を行うことができた。

・参加校の増加、13 校が本プロジェクトのモデル校となった。

◆課題

・回を増すごとに各市町の申込世帯数は増えており、支援機関につながるケースも増加してきたが、短期間に食品を集める方法やルートの確保が必要。

・送料の確保・学校説明の回数増加に伴う時間の確保・申請件数の増加に伴う事務処理対応・食品提供譲渡量の増加に伴う作業工程やボランティアコーディネート能力向上などが今後のプロジェクトを充実させ、拡大し継続させるために必要である。

(5) 東北 6 県のフードバンクネットワークの構築事業(東北フードバンク連携センター)

◆実施内容

・仙台市内に「東北フードバンク連携センター」を設置し仙台市内の企業開拓及び各地のフードバンク団体へ食品のマッチングを実施

・東北 6 県のフードバンク団体のネットワーク構築と組織基盤強化に向けたヒアリングを実施。
(青森 1、秋田 1、宮城 4、福島 3、山形 2、岩手)

◆課題

・「東北フードバンク連携センター」の法人化に向けた安定的な資金確保。

・各団体の基盤が整っていない事とノウハウ等に差があり、活動に必要とする食品量を集められる状態ではない。また行政や社会福祉協議会、生活困窮者自立支援窓口等の支援機関との連携体制を構築できていない状況で要請に対応できない場合がある。

・フードバンク団体間での食品の共有に必要とする輸送にかかるコストの確保。

(6) その他 (アドボカシー)

◆国に対する「食品ロスの削減の推進に関する法律」の制度内容の拡充を求める活動を 2020 年度はほとんど

行えなかった。

(7) コロナ禍対応

- ・福島県郡山市、カレッジリーグへの食料支援を各県のフードバンク団体へ呼びかけ実施(66.0 kg)
- ・多文化アカデミーへの食品譲渡(327.84 kg)

(8) メディア掲載等

- ・テレビ 5 回 ・新聞 15 回 ・その他 1 回

【2 事業実施に関する事項】

(1) 特定非営利活動に関わる事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費 の金額 (千円)
フードバンク事業	・市民や生産者に食品の提供をお願いし、生活困窮者自立支援相談事業所などに無償で提供する事業。 ・東北6県でフードバンクのネットワークを構築する事業(東北フードバンク連携センター)	常時	盛岡広域 岩手県内 東北6県	9名	・岩手県内の生活困窮者自立相談事業所など31団体。 延べ850世帯分 ・東北のフードバンク活動 9団体	6,811
困窮者支援事業	子どもを持つ世帯の困りごとを早期発見し支援機関との連携で解決する事業	随時	盛岡市など県内	6名	子ども世帯 1059世帯	14,919
社会参加推進事業	寄付された食品の仕分けや、フードドライブなどをきっかけに困窮者支援に市民の参加を促進する事業	週4回 程度	当事務所 岩手県内	6名	協力団体・企業・学校等 153団体	20
就労継続、就労移行支援事業	実施なし					0
その他の付帯する事業	実施なし					0

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額 (千円)
実施なし						0